

アオコ

駆除ロボットを共同開発 障害物検知し衝突回避 長崎大とベンチャー企業、2年後の商品化目指す / 長崎

毎日新聞 2016年8月31日 地方版



タブレットで遠隔操作できるロボット

植物プランクトンの異常発生で水質汚濁を引き起こす「アオコ」を自律的に駆除するロボットを、長崎大の研究者と長崎市のベンチャー企業「エビスマリン」が共同開発した。1日に552立方メートルの水に含まれるアオコを処理でき、同社は2年後の商品化を目指す。

ロボットは縦約2メートル、横約1メートル。底に設置した装置から超音波をアオコの浮袋に照射する仕組み。浮袋を破壊されたアオコ

は沈降して、光合成を行えなくなり死滅するという。

同大の小林透教授と山本郁夫教授の研究で、ロボットはタブレットなどを使って遠隔操作でき、水面の障害物を自動検知して衝突を回避する自律性も備えた。山本教授の発明を基に同社が製作したプラスチック製の尾ひれで進む。

山本教授は「アオコは世界的な環境問題になっており、ロボットの活用が期待できる」話している。【今野悠貴】